

アンケート結果を受けて改善したいところ 【教育科学系】

「問4 授業で習得したことがらについて、自らの表現で伝えることができる」について、「強く・ややそう思う」が50%程度に留まっている。今後、もう少しアウトプットの時間を増やしたい。

「問9 教員とのコミュニケーションはうまくとれている」の部分について、「強く・ややそう思う」が50%程度に留まっている。ミニッツペーパーだけの間接的なコミュニケーションだけでなく、授業中の指名をもっと増やしたい。

「1回の授業に対する内容が多すぎて、時間内に終わることができず、残念だったこともある」という自由記述があったが、確かに数回そういったことがあった。時間内に内容を十分消化できるように、授業設計の際に配慮したい。

「問7 教員の説明はわかりやすい」について、「どちらともいえない」が約30%あり、他の担当教科に比べても高い（「強く・ややそう思う」は60%）。授業内容を詰め込みすぎたことが原因であると思われる。実際、「問12 一回当たりで扱われる授業の量」で「多い」と回答した学生が25%もいた。生徒指導と進路指導を15コマで扱うには時間が足りず、内容削減は容易ではないが、今後思い切って精選し、スリム化に努めたい。

「問9 教員とのコミュニケーションはうまくとれている」の部分について、「強く・ややそう思う」が50%程度に留まっている。60人授業なので1人1人と丁寧に関わることは容易でないが、授業中の指名を増やす、グループワークの際の机間指導を充実させるなどして、さらなる改善を目指したい。

「問3 授業を…文献やインターネットなどで調査し、新たな思考を展開した。さらにその思考に基づき行動した」で「どちらともいえない」が約50%に達していた。授業外でのグループワークが多い科目だけに、正直なところ意外であった。学生が既存の知識のみで課題に臨んでいる可能性があり、今後は有効な文献やリソースを積極的に紹介していきたい。

「問13 この授業のための週当たりの学習時間」が「なし」の学生が3割弱ほどいた。前述のように授業外での課題は少なくないが、大半がグループ単位での活動のため、一部のメンバーのみが熱心に取り組み、ほとんどコミットしていない学生がいると推察される。今後は、主体的かつ積極的な参加を全ての受講者に促すとともに、「フリーライダー」を許さないような評価のしくみも考えたい。

・本学の担当科目は教職必修科目であり、専門科目とは異なることを今一度ふまえ、ワークやディスカッションを取り入れ能動・主体的に授業に取り組ませることが望ましいと考える。

アンケート結果では、授業の難易度と授業内容の量は、「ちょうどよい」とする回答が最も多い。また、この授業で新しい考え方や知識・技能が身についたと回答した受講生が、9割近くに達している。出席状況も95%近くがほとんど出席したと回答している。

全般的にみて、学生の受講態度は良好であると判断されるので、今後も受講生が講義に対して、できるだけ主体的に取り組めるように配慮した授業を展開したい。

・アンケート結果を受けて、来期は、授業外課題の課し方(問2・3)、受講生と教員とのコミュニケーションの活性化(問9)を中心に改善を図りたいと考えている。

・プレゼン資料が印刷して配ると、やや見にくくなるので見やすいものになるようにしたい。
・受講人数の関係で模擬授業の一人当たりの時間が短すぎるという声があったので、納得できる時間を考えたい。

問3に対する回答があまり芳しくないなので、できるだけ新しい思考を展開したり行動に結びついたりするような仕掛けを講義のなかに取り入れていきたい。

質問項目の1と5で新しい考え方や多様な考え方ができたという学生が「強く」「ややそう思う」含め90%を超えていることは大変うれしい。教科外という特質について、受講生が少なからず関心を持ち、認識を深めてくれたことが改めて感じられた。授業の難易度についても、「ちょうどよい」が8割を超えているが、これは一回あたりの授業内容の量に関して9割が「ちょうどいい」と解答していることと関係していると思われる。授業の内容を絞り、時間をかけて説明したり、実際に活動したりすることが理解を深める上で有効であることがわかった。大学の講義(15回)だけで、教科外活動についてすべての問題を知ることは不可能である。講義内容に触発され、自ら文献にあたり関心を広げていくことが重要になる。この点は、質問6, 7と関係するが、講義内容と授業外での学びをどうつなげることができるかという課題であり、今後実践課題としていきたい。

前半は道德教育の歴史、子どもの思考の発達、コールバーグ理論に基づく道德教育の内容を説明し、後半はそれを基盤として実践的な取り組みについての理論、実際の道德教育の様子、そして模擬授業の実践という構成で進めた。しかし、ビデオで見た実際の現場の様子はオーソドックスな内容であり、学生はコールバーグ理論をより具体的に把握するためには少々物足りない面もあると考えられる。今後、ビデオの選定を改めると共に、さらにその内容と種類を増やしていくことも学生により道德教育について多面的に取り組むために不可欠と考える。その一方では、前述のように専門的な理論的視点を伝えるためにわかりやすい内容や伝え方を工夫していくことも求められる。

・コミュニケーションに関しては、コメントシートの返却が最終回になってしまったことで、やりとりが不十分になってしまいました。この点については、コメントシートや小レポート課題をできるだけ早めに返却するなどして、コミュニケーションを取りやすい環境づくりを心がけたいと思います。
・配布資料などのわかりやすさに課題があるとのことなので、もう少し配布・提示の仕方を見直していきたいと思います。

道德の歴史について知りたいという要望があったので、次回に取り入れたい。
また、H27.7に文部科学省から公表された「小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編」をもとに解説していきたい。

学生が興味関心を持って参加し、自ら調べたいと思う資料の提供に努めます。授業担当者とのコミュニケーションがとれるよう対話を多くする授業にしたいと思います。特に終了時間がいつもぎりぎりでしたので授業の振り返りのできる時間配分に留意いたします。

授業中に質問に答える時間を作り、教員とのコミュニケーションがとれるように改善したい。

おおむね良好であるが、教育現場の新しい動きをもっと入れたい。

・授業内容および活動内容に関する説明をより丁寧にしたい
・受け身の姿勢で授業に参加する学生の自主性を引き出す工夫をしたい
・配布資料を改善したい

コメント用紙等を活用して、学生とのコミュニケーションをより活発にしていきたい。

本授業の内容は、文系になるのですが、理系の学生さんにももっと興味を持ってもらうにはどうしたらいいかを考えてみたい。

授業回数が少なすぎたという回答がありますが、この授業は15回の授業ではありません。その点は、最初に説明してありますが、学生に対して誤解の無いよう、重ねて説明をする必要があると思います。ただ、実習を含むため、特に意義を感じていた者や、授業回数が少なく設定されていることを残念に思う者もいましたので、この回答はどのような意見が反映されたものかについては分かりかねます。

アンケート結果から、改善したい項目は以下の2点。

- ① 問3に対する回答について、授業を受けて各自で文献やインターネットなどを活用し調査を行ったり、考えを深めることができていることがうかがえ、次年度からは発展的な課題を与えるなど(強制はせず)、工夫したい。
- ② 問4に対する回答について、授業で修得したことを自らの表現で伝えることが難しいと感じていることがうかがえ、次年度からは授業内容を整理した後、グループ等で意見交換をする機会を設ける等工夫したいと考えている。

問9の教員とのコミュニケーションは・・・について、自身の中では、一回一回の授業感想に個々に応じて朱書きでコメントをしていることが、私なりの会話だと思っている。学生にとってのコミュニケーションとは？を考え、積極的にコミュニケーションが取れるようにしていきたい。

- ・話し方、説明の仕方について、概ね満足しているようであるが、さらなる工夫に努めたい。
- ・教員とのコミュニケーションに工夫することに努めたい。
- ・受講生が登録している科目全体における週当たりの課題等を把握できないが、自主学習を意欲づけるためにも適宜、課題を与えることも考慮したい。

- ・アンケートで、「授業の難易度」と「授業内容の量」が97.8%「ちょうどよい」ということであったが、問2、問3の「授業で提示された内容で、問題意識を持って自ら行動に及ばなかった学生が2～3割あったので、実践意欲につながる授業法をさらに工夫し深めていきたい。
- ・毎回、コメントシートで熱心に気付いたこと、学んだこと、疑問点などを述べてくれた学生が多かったにもかかわらず、「共有」すべき内容のみの説明にとどめたが、一人ひとりに対し適切なコメントをする機会を増やすことによってさらに学生の意欲を高めることができたと思う。

- ・受講生や科の学生の特性を鑑みて、個別指導、支援の必要性を実感し、教師自身との対話の場を持ちたい。熱意のあるコメントシートが多々あったが、「共有」すべきと判断した問題点、疑問点は次回で説明したが一人一人にコメントを返すとよかったと思われる。
- ・資料を用いる際、併用は必然性のあるものとの十分な説明。(昨年、「道徳教育の研究」で道徳性の発達の理論と、今回の発達段階、発達課題による支援上の留意点はともに「生きる力・豊かな人間性」を育むうえで欠かせないものであり、この二つの科は連動している点、すべての児童生徒への成長を育むには、この資料に表記されていることへの理解が大切である点など)

- ・学生間のコミュニケーション能力、ソーシャルスキル能力は、授業の第11回目ごろより演習の雰囲気がかわり一つの学級としてみれば理想的な交流がなされており確実に成果を実感できたが、自身において学生が自らの気付き、疑問、相談を熱心に綴ったにもかかわらず全体で「共有」できる内容のみ次回でとりあげ説明するにとどめた。しかし本来、一人ひとりにコメントすることによって真摯な学生との交流がさらにより学生自身もそれを望んでいたであろうと痛感している。
- ・グループで活発に討論したあと、すべてのグループに発表の場を設ける機会をふやしたい。

自主学習として製作にかかる作業量が多いため、思考力の育成や文献購読までには至らず、改善の余地があると考え。ただ、学習時間も1時間以上の学生が大部分であり、授業の難易度も「ちょうどいい」とする回答が大部分であることから、これ以上学生の負担をかけることは難しいように思う。授業内で工夫を試みたい。

おおむね良い回答であったので、このまま続けていきたい。